

## 授業展開例（音楽）

- 1 校種・学年 特別支援学校（知的障害） 小学部 第3学年
- 2 題材名 てあそびうたをうたおう～あまたのうえでパン～
- 3 題材設定の理由  
児童観 省略

### 題材観

音楽が好きでリズム感のある児童であるため、今まで学習したことのない、少しレベルアップしたリズムを習得させたいと考え、本題材を設定した。てあそびうたである「あまたのうえでパン」は、歌詞の中にある「パン」という言葉の部分で両手をたたいて、リズム打ちを楽しむというものである。短い歌の中で、両手をたたく場所（頭の上、顔の横、へその前、おしりの後ろ）を意識することができるため、リズム打ちの導入として適している。また、歌の中に4分音符のみの簡単なリズムや、今まで経験したことのない付点4分音符や8分音符、4分休符も混じったリズムが含まれているため、レベルアップした学習につなげていきたい。

### 指導観

指導にあたっては、次の2点に留意して指導を行う。

1点目は意欲的な学習につながるよう、活動にめりはりをつけるということである。45分という授業の中で、歌う、打楽器を使う、動く、静かに聴くという4種類の活動で授業を構成する。（歌唱、器楽、身体表現、鑑賞の4つの観点から構成する）

2点目は学習内容をパターン化することである。授業の流れや学習内容に見通しをもたせるために、毎回、授業の始まりの歌として「せんせいとおともだち」を歌い、その後、「てあそび」「がっき」「うごく」「きく」の順番で授業を進めていく。

### 4 題材の目標

4分音符、付点4分音符、8分音符、4分休符が混ざったリズムを、両手や打楽器を鳴らしてリズム打ちをすることができる。

友だちと合わせてリズム打ちをする際、2名の児童のリズムが4小節一致する。

### 5 指導計画（全5時間）

- |     |               |                |
|-----|---------------|----------------|
| 第1次 | 両手をたたいてリズム打ち  | … 1時間          |
| 第2次 | 楽器を鳴らしてリズム打ち  | … 2時間          |
| 第3次 | 友だちと合わせてリズム打ち | … 2時間（本時1 / 2） |

### 6 本時の目標

#### 全体の目標

- ・ 4分音符、付点4分音符、8分音符、4分休符が混ざったリズムを、両手や打楽器を鳴らしてリズム打ちをすることができる。
- ・ 友だちと合わせてリズム打ちをする際、2名の児童のリズムが2小節一致する。

### 個々の目標（児童A，B）

児童名	これまでの様子	目標
A	・音楽が好きでリズム感がある。初めて学習する曲でもすぐに覚え、手本どおりにリズム打ち（2分音符，4分音符のリズム）をすることができる。	・たいこを使って，4分休符，付点4分音符，4分音符，8分音符の混じったリズムを，すべて正しく打つことができる。 ・友だちと合わせてリズム打ちをする際，2名の児童のリズムが2小節一致する。
B	・打楽器は好きで，意欲的に演奏する。初めて学習する曲は，最初は見ているだけで終わってしまうことが多いが，何度か練習すると，簡単なリズム打ち（4分音符のリズム）をすることができる。	・タンバリンを使って，4分休符，4分音符のリズムの部分を正しく打つことができる。 ・友だちと合わせてリズム打ちをする際，2名の児童のリズムが2小節一致する。

### 人権教育の視点

- ・相手を意識しようとする心や態度をはぐくむ。（他者理解，人と協力できる態度や技能）
- ・上手にリズム打ちができたことを評価し，自尊感情を高める。

### 7 準備物

C Dデッキ，音楽CD，本時の学習活動カード，楽器（たいこ，タンバリン），歌詞カード

### 8 学習過程

学習活動	指導上の留意点（ <input type="text"/> 課題， 支援， 評価）		
	A	B	全体
1 はじめのあいさつ (1分)	姿勢を正すよう言葉かけをする。 (T1)		「トントンパ」と声をかけ，姿勢や目線が前を向いているか確認してからあいさつをする。
2 本時の学習内容を確認する。(1分)		視線が前を向いているか確認する。 (T2)	あらかじめホワイトボードに本時の学習内容を掲示しておく。 せんせいとおともだち てあそび がつき う ごく きく おわり
3 「せんせいとおともだち」を手をつないで歌う。(3分)	歌詞の中に誰の名前から入れて歌うか，順番を決めるよう指示をする。 (T1)	円になるよう椅子を動かす支援をする。 (T1)	手をつなぎやすいよう円になるよう指示をする。
4 てあそびをする。 ・「あたまのうえでパン」の歌に合わせて，何度かリズム打ちをする。(10分)		様子を見ながらB児に接近してリズム打ちをしたり，B児の手を取ったりしてリズム打ちをするよう促す。(T1)	わかりやすいよう絵譜を提示する。 教員が最初に歌いながら，リズム打ちをして見本を見せる。 手をたたく場所や4分休符，付点4分音符，8分音符のリズムに気をつけるよう，ダイナミックな動きで示すようにする。

5 楽器を使って演奏する。(20分) ・「あたまのうえでパン」を1人ずつ前に出て演奏する。 ・「あたまのうえでパン」を2人で前に出て、合わせて演奏する。	たいこを使って、4分休符、付点4分音符、4分音符、8分音符の混じったリズムを、すべて正しく打つ。	タンバリンを使って、4分休符、4分音符のリズムの部分正しく打つ。	楽器(たいこ、タンバリン)の名前を1つずつ問い、各学期の音を少しずつ鳴らしながら提示していく。 前に出て演奏するときは、ピアノの伴奏に合わせて「気をつけ、礼」をしてから、始めるよう指導する。 児童の正面でリズム打ちの見本を提示する。 1人ずつ、上手にリズム打ちができたところを誉める。 相手を意識して、リズムを一致させるよう指導する。 一致した演奏ができた時には、しっかりと誉めるとともに、その時の気持ちを表現させる。
	友だちと合わせてリズム打ちをする際、2名の児童のリズムが2小節一致する。  楽器を鳴らすときの注意点を告げる。(投げない、強くたたきすぎない、など)(T1) 必要であれば、楽器の正しい持ち方を示す。(T1) たいこを使って、4分休符、付点4分音符、4分音符、8分音符の混じったリズムを、すべて正しく打つことができる。 友だちと合わせてリズム打ちをする際、2小節、相手のリズムと一致させることができる。	Aが前に出て演奏しているとき、もし耳をふさいでいても認めて見守る。(T1, T2)  タンバリンを使って、4分休符、4分音符のリズムの部分正しく打つことができる。  友だちと合わせてリズム打ちをする際、2小節、相手のリズムと一致させることができる。	
6 うごく(リトミック)(5分)	曲に合わせた動きを無理強いしないようにする。(T2) できるだけAの動きに合わせてピアノ伴奏をする。(T1)		椅子を後ろによせるよう指示をする。 激しい動きが続かないよう、また児童の動きを見ながら、曲順や曲のテンポを考えて、ピアノ伴奏をする。
7 きく(鑑賞)(4分)	聞いている最中に起き上がった場合は、横になることを伝える。(T1)		リラックスできるよう、横になる体勢になるよう指示をする。
8 おわりのあいさつ(1分)			「トントンパ」と声をかけ、姿勢や視線が前を向いているか確認してからあいさつをする。

ゴシック体の表記は、人権教育にかかわる指導。

## 9 評価の観点

- ・4分音符、付点4分音符、8分音符、4分休符が混ざったリズムを、打楽器で一部分または全部を正しく打つことができたか。
- ・友だちと合わせてリズム打ちをする際、2名の児童のリズムが2小節一致することができたか。

10 年間指導計画 省略

11 教室内の配置 省略